

日時/会場	題目	座長および話題提供者
防災 【研01】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2303	「複合的自然災害に関する工学的視点からみた地域防災のあり方」—阿蘇地域での事象を例として— 地盤工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/jiban/ 火山工学研究小委員会・斜面工学研究小委員会 2016年熊本地震・豪雨災害から阿蘇山噴火災害へと九州中央部の火山地域での複合自然災害が続いている。このような複合災害の減災・防災を考える意義は大きい。例えば、首都圏では直下型の地震と富士山噴火が連動する可能性が指摘されている。地盤工学委員会の委員は熊本地震と阿蘇山噴火の災害調査を実際に実施している。その成果をまとめ、複合災害の実情と問題点を論議する。 ①阿蘇火山と熊本地震の特性を解説し、どのような被害が起きたのか、 ②そしてどのような対策や応答がされ、 ③今後の課題はどこにあるのかに迫りたい。総合討論ではこれらの研究成果をもとに、地震・豪雨と火山噴火の複合災害への減災・防災のあり方を討論する。	座長 鈴木素之 話題提供者 中村洋介 山里平 中濃耕司 千葉達朗 瀬戸真之 安養寺信夫 山口大学 大学院創成科学研究所 教授 斜面工学研究小委員会委員長 福島大学 「活断層布田川断層の活動」 気象庁 「2013-2016年阿蘇山の噴火災害」 東亜コンサルタント 「熊本地震・豪雨による土砂災害」 アジア航測 「UAVによる阿蘇山2016年噴火災害の状況把握」 福島大学 「地形変化、被害の現状と対策」 砂防・地すべり技術センター 「複合的自然災害に対する防災の在り方」
社会インフラ維持管理 【研02】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2403	座長 長山智則 話題提供者 伊藤裕一 本間淳史 松田浩 長山智則 宮下剛 鋼橋の維持管理の効率化・確実化に向けて—モニタリング技術の利活用— 鋼構造委員会 http://committees.jsce.or.jp/steel/	東京大学 JR東海 NEXCO東日本 長崎大学 東京大学 長岡技術科学大学
環境技術 【研03】 9月11日(月) 13:00-15:00 西講義棟第1講義室	「放射性汚染物質を含む廃棄物等をどう安全に始末していくかを考えよう」—事故由来汚染廃棄物対策および放射性廃棄物処分に関する最近の技術動向ー（仮題） エネルギー委員会（低レベル放射性廃棄物・汚染廃棄物対策に関する研究小委員会） http://committees.jsce.or.jp/enedobo/	座長 大西有三 出口朗 佐々木泰 加藤和之 油井三和 勝見武 河西基 関西大 客員教授／京都大学 名譽教授 原環機構 技術部長 HLW層処分事業の最近の取組み状況 日本原燃(株) 開発設計部長 LLW埋設事業の最近の取組み状況 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 執行役員 1F廃止措置に向けた技術開発等の最近の取組み 日本原子力研究開発機構 福島環境安全センター 特任参与 福島における除染および除去土壤減容・再生に係る研究開発の最近の状況 京都大学大学院 地球環境学専攻 教授 土壌特性を踏まえた除去土壤の再生利用の技術動向 (株)アソナ大成基礎エンジニアリング 電力中央研究所 土木学会の活動状況
【研04】 9月11日(月) 13:00-15:00 総合学習プラザ大講義室	水工学分野の気候変動適応研究において社会実装の促進 に何が必要か？ 水工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/	座長 中北英一 話題提供者 (予定) 中北先生 山田先生 橋本典明先生 藤見先生 行政 京都大学防災研究所 京大防災研 気候変動全体論 北大 DS 九大 高潮・洪水 熊大 計画 九地整, 福岡県, 佐賀県, 長野県, などから1, 2名
【研05】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター1号館1402	低炭素社会に向けた地盤改良と防災 木材工学委員会 地中使用木材の耐久性評価に関する研究小委員会 http://committees.jsce.or.jp/mokuzai/	座長 原忠 話題提供者 森本文崇 松橋 利明 末次 大輔 沼田淳紀 桃原 郁夫 吉田 雅徳 水谷 半介 高知大学教授 防災推進センター副センター長 高知市総務部新庁舎建設事務所長 青森県東青地域県民局東青地方漁港漁場整備事務所 計画指導課長 佐賀大学准教授 地中使用木材の耐久性評価に関する研究小委員会委員長 飛島建設株式会社 技術研究所環境・エネルギーグループ主席研究員 森林総合研究所 産官学民連携推進担当研究コーディネーター 福井工業高等専門学校教授 兼松サステック株式会社 ジオテック事業部統轄
【研06】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター1号館1403	構造物と都市の超先端数値シミュレーションの研究開発と実務利用の可能性 応用力学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/amc/index.html	座長(予定) 市村強 話題提供者 浅井光輝 井料隆雅 澤田正孝 高橋佑弥 東京大学 九州大学 神戸大学 電力中央研究所 東京大学
【研07】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2304	土木工学では、構造解析・交通解析等でさまざまな数値シミュレーションが研究され実務利用されてきた。近年、計算機の進歩と都市情報の増加を利用し、超大規模モデルを桁違いの速度・精度で解析する超先端数値シミュレーションの研究開発が進められている。シミュレーションの基盤となる計算科学・計算機科学・情報科学を踏まえ、超先端数値シミュレーションの研究開発の現状を紹介する。併せて、このような超先端数値シミュレーションを設計・都市計画等の実務に利用する可能性を議論する。	座長 緒方健治 話題提供者 田山聰 日外勝仁 小山倫史 他数名 NEXCO中日本 NEXCO西日本 寒地土木研究所 関西大学
【研08】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2203	DIVERSITYの視点から見直そう:土木計画学における研究と教育 土木計画学研究委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/ip/index.shtml ※ 共催:ダイバーシティ推進委員会 http://committees.jsce.or.jp/diversity/	座長 Giancarlos Troncoso Parada 話題提供者 中道 久美子 藤原 章正 Jan-Dirk Schmidke 谷口 綾子 村山 要人 松尾 美和 Wisot Indrawat Wisineo 東京大学 東京工業大学 広島大学／留学生指導・途上国研究経験が豊富な教員から見た教育・研究 京都大学／外国人から見た研究・教育 筑波大学／女性から見た土木計画学における教育・研究 東京大学／異分野から見た国際研究・教育 神戸大学／海外研究経験のある女性から見た研究・教育 名古屋工業大学／女性外国人から見た研究・教育
【研09】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2404	コンクリート構造物の品質・耐久性確保マネジメントシステムの社会実装 コンクリート委員会・建設マネジメント委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/index.html http://committees.jsce.or.jp/cmc/	座長 細田 晓 話題提供者 河野広隆 田村隆弘 岩城一郎 佐藤和徳 二宮 純 坂田 昇 横浜国立大学准教授 京都大学教授 徳山高専 日本大学 国土交通省東北地方整備局 NEXCO西日本エンジニアリング 鹿島建設
【研10】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2406	山口県で構築されたコンクリート構造物のひび割れ抑制システムは、品質確保システムへと発展し、2013年からは東北復興道路での品質・耐久性確保システムへつながり、社会実装が進められている。その後、群馬県等の各地の自治体・事業者においてもシステムの構築が進められ、2017年度には熊本、阿蘇の復興において山口県の品質確保システムが適用される状況となっている。本研究討論会では、一連の品質・耐久性確保システムの本質を問題解決や人財育成のマネジメントの視点から論じ、システムを社会実装し、持続的に発展していくための課題について議論する。また、システムによる効果と生産性向上の観点からの課題についても議論する。 i-Constructionの先、一層進化したロボット技術やAI技術の活用によって改善が進む将来の建設現場の姿を思い描き、そこでの人の役割を考える。ロボット技術やAI技術が将来世代の人間の職を奪うことになると警鐘が鳴らされる今、その利活用の方針と未来の土木技術者や技能者に求められる資質を考え、これから建設業界が取り組むべき課題を①建設現場におけるロボット技術やAI技術の効果とリスク②ロボット技術やAI技術の利活用の方向性③多様な人材の確保や多能な人材の育成等の観点から議論する。	座長(予定) 山元弘 話題提供者(予定) 穴井宏和 島本卓三 【話題提供者】山根修治 延藤 遼 北原成郎 古屋 弘 建設用ロボット委員会副委員長 ㈱富士通研究所 知識情報処理研究所 人工知能研究センター 国土交通省 九州地方整備局 九州技術事務所長 建設技術研究委員会委員長 建設技術研究委員会運営副小委員長 建設用ロボット委員会灾害・事故研究小委員長 建設用ロボット委員会新技术研究小委員長

日時/会場	題目	座長および話題提供者					
【研11】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2305	先達に学ぶトンネル技術 トンネル工学委員会運営小委員会 技術交流部会 http://committees.jsce.or.jp/tunnel/	座長(予定) 士門 剛 話題提供者(予定) 朝倉俊弘 中田雅博	首都大学東京 京都大学名誉教授 中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株)				
	主題:日本のトンネル技術は、明治時代から技術改革を重ね、その技術力は大きく向上した。しかしながら近年、トンネル工事そのものの減少、ベテラン技術者の退職等から、技術力の低下が懸念されている。そこで、トンネル技術の世代間継承を目的に、トンネル技術の最前線に開られた各分野の先達たちにその貴重な経験に基づいた話題を提供していただこうとした。各種のトンネル技術の導入、工夫、開発、今後の技術展望などについて講演いただき、これからトンネル技術のあり方を考える場としたい。						
【研12】 9月11日(月) 13:00-15:00 西講義棟第3講義室	原子力土木委員会での危機耐性への取り組み 原子力土木委員会 http://committees.jsce.or.jp/ceofnp/	座長 中村 晋 話題提供者 中村 晋 近藤駿介 高田毅士 本田利器 松山昌史 大友敬三	日本大学、原子力土木委員会委員幹事 日本大学 主旨説明 東京大学・名誉教授、原子力発電環境整備機構・理事長 リスク情報を活用した原子力安全への取り組み 東京大学大学院・教授、原子力発電所の地震安全に関する基本原則構築の試み 東京大学大学院・教授 危機耐性を考慮した耐震設計体制の構築への取り組み 津波に対する対策への取組み 電力中央研究所 屋外重要土木構造物の取組み				
	2011年東北地方太平洋沖地震での被災を受けて、土木学会原子力安全土木技術特定テーマ委員会からの提言として、設計で考慮する事象への対応を考慮する“危機耐性”という概念が提案された。原子力安全の基本思想である深層防護の現状と課題やその設計への反映について、長年我が国のリーダーとしてリードされてきた専門家、その考え方を社会基盤施設の安全へ反映するための枠組みづくりを実施している研究者、および原子力土木委員会での取り組みを紹介する。それを踏まえ、参加者を交えた危機耐性の取り組みに関する討論を行い、そのために乗り越えなければならない課題を明らかにする。						
【研13】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2407	Society5.0(超スマート社会)におけるインフラの新たな維持管 話題提供者 理・更新・マネジメント -SIPインフラにおけるAIを用いた技術革新とその可能性- SIPインフラ連携委員会 ICTを最大限に活用し、サイバー空間とフィジカル空間とを融合させ、人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」(Society5.0)の実現を目指すことが第五期科学技術基本計画によって示されている。SIPインフラはこのSociety5.0実現に貢献することを重要な目標としており、AI、IoTなどを用い、インフラに関する新たな維持管理・更新・マネジメントに関する技術開発を行っている。本研究討論会ではAI技術の応用例の紹介、AI技術をもとにした技術革新とインフラの維持管理の効率化との関係及び今後の可能性について議論する。特に、インフラの余寿命予測技術とAI技術との融合を中心にして、インフラのアセットマネジメントシステムの全国展開をも視座に入れた議論を行う。	座長 藤野 陽三 Society5.0(超スマート社会)におけるインフラの新たな維持管 話題提供者 理・更新・マネジメント -SIPインフラにおけるAIを用いた技術革新とその可能性- SIPインフラ連携委員会	横浜国立大学 上席特別教授 櫻井 彰人 杉山 将 田中 健一 久田 真 前川 宏一 若原 敏裕	慶應義塾大学 理化学研究所 / 東京大学 三菱電気 東北大学 東京大学 清水建設			
【研14】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2202	分野・部門間協働による防災推進のためのアジア諸国協力 話題提供者 ACECC TC21国内支援委員会 http://committees.jsce.or.jp/acecc/	座長 竹内邦良 分野・部門間協働による防災推進のためのアジア諸国協力 話題提供者 ACECC TC21国内支援委員会 http://committees.jsce.or.jp/acecc/	竹内邦良 石渡 幹夫 天野 雄介 酒井 直樹 和田 章 倉田 英之 天野 光歩	アジア土木学会連合協議会TC21共同議長、土木学会ACECC TC21国内支援委員会委員長、山梨大学名誉教授、水灾害・リスクマネジメント国際センター前センター長 独立行政法人 国際協力機構 国土交通省 総合政策局 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 東京工業大学名誉教授 熊本県西原村役場 総務課 株式会社 建設技術研究所			
	科学技術の進歩にもかかわらず国内外で災害が増加しており、アジア太平洋地域では減災・防災は共通した喫緊の課題になっている。防災に関する科学技術情報が、災害に対する備えや避難の意志決定を行う行政や市民に正確に伝わっていないこと、また学術分野や部門間の意思疎通、知識・知見の伝達が不十分であることが、災害の主因の一つと考えられる。アジア土木学会連合協議会の21番目の技術委員会であるTC21は学術・部門横断的アプローチ(Transdisciplinary Approach)により、災害に強い社会づくりに貢献することを目的として設立された。本研究討論会では、TC21の取組みを紹介するとともに、災害の根本原因の軽減を通じた災害に強い社会づくりについて議論する。						
【研15】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター2号館2306	次世代が知りたい土木の魅力とは何か 土木広報センター ¹ http://committees.jsce.or.jp/cprcenter/	座長 島谷幸宏 話題提供者 緒方英樹 小松淳	九州大学 (土木広報センター 次長/インフラ解説グループ長) 全国建設研修センター (土木広報センター 土木リテラシー促進グループ長) 日本工営 (土木広報センター 次長/情報集約・発信グループ長) 国土交通省九州地方整備局 土木学会西部支部 コンサルタント委員会市民交流研究小委員会 学生 (九大女子2年生土木系1名、九大女子2年生非土木系1名) 子育てを終えた女性1名				
	土木学会の土木広報センターの活動を中心に、土木学会(支部を含む)では土木の魅力を市民にどのように伝えているかを紹介していただき、市民への情報発信と市民との交流の場の形成が土木の魅力を伝えるためにどのように活かされているかをバネリスト間で議論していただきます。また、西部支部の具体例とともに議論を進めます。さらに、地元の小・中学生などの次世代を担う人々とのふれあい、ユニークな取り組みについて、それらが土木の魅力を伝える広報活動として非常に効果的であることを事例を挙げて紹介していただきます。そして、後半で次世代が知りたい土木の魅力とは何か、土木の魅力をどのように次世代に伝えるかを参加者全員で討論する。						
防災	【研16】 9月11日(月) 13:00-15:00 センター1号館1303	講演者 巨大地震・津波に対し水循環施設はどう備えるべきか 水循環施設の合理的な災害軽減対策研究小委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec2/	宮島昌克 富本勝利 小西康彦 井上涼介 飛田哲男 有賀義明 山中明彦 原田賢治	金沢大学 日水コン 日水コン 元茨城大学 関西大学 弘前大学 山中明彦 静岡大学			
	兵庫県南部地震以後、巨大地震のたびに水循環施設に被害が生じて国民生活に給水制限やトイレの使用制限などの影響がでている。本討論会ではそれぞれの地震の特徴と被害形態を踏まえて、どのようにしたら今後想定されている巨大地震に備えることができるかを討論する。						
	【研18】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2303	非線形地震応答解析の品質保証とそのあるべき姿について 考える - 非線形地震応答解析法の妥当性確認/検証方法の体系化について - 地震工学委員会・地盤・構造物の非線形地震応答解析法の妥当性確認/検証方法の体系化に関する研究小委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec2/	座長 中村晋 話題提供者 堀 宗朗 室野剛隆 大矢陽介 矢部正明 若井明彦 佐竹亮一郎	日本大学工学部土木工学科 国内外の数値解析の妥当性確認/検証方法の現状と課題および小委員会活動について 京大学地震研究所 巨大地震津波災害予測研究センター HPCを用いたシミュレーション (公財)鉄道総合技術研究所 鉄道地震工学研究センター 鉄道構造物の地震応答解析 (国研)港湾空港技術研究所 地震防災研究領域 港湾構造物の地震応答解析 (株)長大 構造事業本部 道路構造物の地震応答解析 群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門 地盤工学分野での数値解析 群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門 地盤工学分野での数値解析			
		1995年兵庫県南部地震以降、耐震設計に関する基準類は、非線形地震応答解析を利用し、耐震性能の評価を行う体系に改訂された。施工に係わる品質保証と同様に、複雑な地震時挙動の設計や評価に数値解析を利用するためには、その品質や信頼性を向上させる枠組みの構築が急務と考えられる。さらに、その構築は、有限要素法から最近の粒子法などの非線形地震応答解析法の適切な発展を促進する意味でも重要となる。研究討論会では、耐震設計などで利活用が増加している非線形地震応答解析法の品質評価の現状を認識し、体系化の必要性とそのコンセンサスを形成するとともにそれに必要な課題を明らかにすることを目的とした討論を行う。					
	【研19】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター1号館1402	「構造設計における目標安全性水準の設定 ~ How safe is safe enough? ~」 構造工学委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm	座長 佐藤尚次 話題提供者 高田毅士 蜷沢勝三 菊池喜昭 有川太郎 秋山充良	中央大学教授 「設計基準体系における安全性照査ガイドライン策定小委員会」委員長 東京大学:建築分野 電力中央研究所:原子力分野 東京理科大学:地盤分野 中央大学:河川・海岸分野 早稲田大学:構造分野			
		構造工学委員会では、「設計基準体系における安全性照査ガイドライン策定小委員会」を設立し、重要課題について討議を重ねてきたが、その中で最も重要なテーマである「目標安全性水準の設定」についての討議内容を紹介し、参加者からご意見をいただき、今後の活動に反映させたい。 討議の主な観点としては、地震作用のような低頻度の変動作用や偶発作用が主たる作用となる限界状態、全確率か条件付き確率か、リスクの経済・社会的受容性、国際標準ISO2394で紹介されているLQI(Life Quality Index)の考え方、などがある。How safe is safe enough? という問い合わせに對して、皆さんはどうのように答えますか?					
	【研20】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター1号館1403	鋼・コンクリート複合構造物と水 ～構造物の寿命を全うさせるために水を管理する～ 複合構造委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/fukugou/index.html	座長 大西 弘志 話題提供者 大西 弘志 大塚 努 廣河 了亮 西内 達雄 西 弘	岩手大学 岩手大学 東京地下鉄(株) 高槻市 (一財)電力中央研究所 (株)CORE技術研究所			
		我が国では橋梁等において水が原因と考えられる損傷が多く発生し、構造物としての寿命が大幅に短縮されているとの研究結果から、橋梁への水対策は維持管理上必要不可欠となっている。しかし、これらの構造物に対して水がどのように浸入して損傷を与えるかが明確になっていないため、防水・排水工も多種多様な手法が提案されている。水対策の施工にあたっては施工困難箇所や交通規制等施工条件が厳しい場合への対応など、従来工法においてもいまだに課題は多く、供用下にあれる構造物の寿命を保全できているのかどうかについて議論の余地がある。 そこで本研究討論会では、鋼やコンクリートと水の接点から、複合構造物と水の関連性について基本から再確認する。具体的には、各種構造物において、水によりどのような損傷が生じているか、防水・排水対策をどのように行っているかを報告してもらいたい、これまで見落とされている事象や、参考になる技術について討論したいと考えている。また、防水・排水小委員会(H210(終了), H214(活動中))における活動報告を行い、多様な観点を持った技術者から、今後の検討方針について活発かつ有益なご意見をいただきたいと考えている。					
	【研21】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2403	人にやさしい地下空間の創造に向けて ～ 地下空間のわかりやすさ、歩きやすさ ～ 地下空間研究委員会 http://www.jsce-ousr.org/	座長 清水 則一 話題提供者 横口 敏 古川 隆一 今泉 晓音 工藤 康博	地下空間研究委員会 心理小委員会委員(山口大学教授) 福岡市地下鉄事業者(福岡市交通局施設部施設設計課建築設計係) 天神地区地下街事業者(福岡地下街開発株式会社管理部) 行動心理の研究者 心理小委員会委員(福岡大学助教) 都市計画の専門家 計画小委員会委員(地下空間研究委員会顧問)			
		わが国の都市では、地下鉄や地下街、地下道、地下駐車場などの地下空間が建設してきた。今では、それぞれの歩行空間がネットワークされ、民地ビルの地下階にまでシームレスに連絡されており、不特定多数の人々が行き交う、都市の活動を支える重要なインフラとなっている。その一方で、地下空間特有の閉鎖性や迷路性に加え、平面的にも立体的にも複雑な空間となっている施設もある。各施設では、その改善に取り組んでいるが、いま、誰もがわかりやすい空間にならざるを得ない。わかりやすく、歩きやすい空間形成を進めることで、常時だけでなく、災害時にも安全に避難することが可能になる。討論会ではこのような地下空間施設の現状に着目し、立場の異なる様々な専門家を交え、利用者の行動の側面を中心に意見交換したいと考えている。					

日時/会場	題目	座長および話題提供者			
【研22】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2304	都市機能のリノベーションとトンネル技術の応用 トンネル工学委員会(特殊トンネル部会) http://committees.jsce.or.jp/tunnel/	座長 清水 滉 話題提供者 近藤政弘 桑原 清 丸田新市 藤岡一頼 澤田 亮 田島新一	東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター 次長 西日本旅客鉄道株式会社 株式会社ジェイティック 植村技研工業株式会社 NEXCO 総研 鉄道総合技術研究所 鹿島建設株式会社	鉄道などで分断されているまちの活性化や鉄道切、幹線道路の渋滞緩和などによる都市機能の効率化を目的に、鉄道と道路や河川・水路などの立体交差事業が実施される。この場合、オーバーパス型やアンダーパス型の横断施設が施工されるが、近年では特にアンダーパス型が多用される傾向にある。これは、日本の高いトンネル技術を背景にその応用技術が発展したためと考えられる。本研究討論会では、トンネル技術を応用したアンダーパス型の横断施設の設計・施工に関して、これまでの変遷を総括するとともに、都市機能のリノベーションにより貢献するトンネルの技術開発の展望について議論を深める。	
【研23】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2404	質の高いインフラ投資の実現に向けたODA事業の改善方策 建設マネジメント委員会 http://committees.jsce.or.jp/cmc/	座長 小澤一雅 話題提供者 奥村康博 金哲太郎 傳 晓 林 幸伸 福本勝司	東京大学 国土交通省 (独)国際協力機構 大成建設(株) 日本工営(株) 大林道路(株)	ODA事業を通して、発展途上国へのインフラ整備を支援するとともに、建設技術の移転、現地の人材育成に寄与することは、国際社会の発展のために日本が果たさなければならない大きな役割であり、これらに貢献可能な本邦企業が長期的に質の高いインフラ事業の実現に関わることが肝要である。土木学会建設マネジメント委員会ODA活用小委員会は、平成27年6月に中間報告書を取り纏め、包括的建設サービス(Wrap-up Construction Service (WCS))方式と包括的地域協定(Wrap-up Regional Agreement (WRA))方式の2つの事業方式を提案している。事業方式や契約問題の観点から、質の高いインフラ投資の実現に向けたODA事業の改善方策について議論する。	
【研24】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2406	「インフラメンテナンスへのロボット技術の導入」～現状と将来展望～ 建設用ロボット委員会 http://committees.jsce.or.jp/robot/	座長 建山和由 話題提供者 六郷恵智 新田恭士 安田亨 加瀬裕 隈部佳	立命館大学理工学部教授、建設用ロボット委員会委員長 岐阜大学工学部社会基盤工学科名誉教授、特任教授 国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 企画専門官 パシフィックコンサルタント株式会社 交通基盤事業本部 兼 技術研究センター 技術理事 パナソニック株式会社コネクティッドソリューションズ社 係長 九州旅客鉄道株式会社施設部工事課土木技術マネジメント 課長代理	橋梁やトンネルといったインフラの老朽化が叫ばれて久しいが、これらの構造物の点検はいまだに人による作業に大きく依存している。このような背景のもと、SIPを始めとしてインフラメンテナンスへのロボット技術の導入が進められている。本研究討論会では、インフラメンテナンスの現状および、現在導入されているロボット技術の現状を紹介すると共に、今後インフラメンテナンス分野へロボット技術を積極的に導入するためにはどうすべきかを議論する。また、2030年のインフラメンテナンスの理想像等も論点に議論する。	
【研25】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2407	官民連携のまちづくり活動における市民合意形成 コンサルタント委員会市民合意形成小委員会 http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/index.asp	座長 上野俊司 話題提供者 森本章倫 林 将廣 伊藤将司	国際航業株式会社 早稲田大学理工学部院 社会環境工学科 教授 株式会社アイ・エス・エス 株式会社福山コンサルタント	少子高齢化、環境問題、生活様式の変化などの様々な地域課題や社会問題等により、市民ニーズは多様化・高度化し、従来の行政サービスを越える対応が求められている。また、財政制約下の中では、持続可能な都市経営の実現が課題となっており、官民が連携した様々な公的な活動が求められている状況である。このような状況の中、官民連携によるまちづくりが広がり、多数の活動事例が見られる。 本研究討論会においては、当委員会がこれまで活動してきた社会資本整備や防災まちづくりの市民合意形成に関する研究成果を踏まえ、官民が連携して活動を行っている先進事例を紹介しながら、このような活動を行う上で求められる市民合意形成について、議論を深めてみたい。	
【研26】 9月13日(水) 13:00-15:00 西講義棟第1講義室	下水再生水の利用促進における環境工学の役割 環境工学委員会 http://committees.jsce.or.jp/eec/	座長 久場 隆広 話題提供者 山下 洋正 濱田 秀幸 田中 宏明 大熊 那夫紀	九州大学 国土交通省 國土技術政策総合研究所 下水道研究部 下水処理研究室 室長 国内の再生水利用紹介とISO国際規格化 福岡市下水道局 下水再生水の30年間以上に渡る天神地区等への給水状況と新技術導入 京都大学 下水再生水の農業利用と病原体リスク 造水促進センター 下水再利用のためのMBR+ROシステムの事例紹介	偏在する水資源に対して都市部においては人口集中と水需要の増加がある。また、地球規模での気候変動により洪水リスクの増大が懸念されている。このため、非在来水源である下水処理水の再生利用を積極的に進めることが求められている。本討論会では、下水再生水の利用促進に取り組んでいる方々に話題提供をしていただき、今後の下水再生水利活用の在り方を考え、環境工学分野が貢献をしていくには何が必要かを討論する機会としている。	
【研27】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2203	技術伝承における映像の果たす役割 ～九州の土木遺産を中心として～ 土木技術映像委員会 http://committees.jsce.or.jp/avc/	座長 大野 春雄 話題提供者 竹村 次朗 福原 美三 岸田 徹 石川 孝重 大和 則夫 鷺見 浩一	土木学会土木技術映像委員会委員長(建設教育研究推進機構理事長・攻玉社工科短期大学名譽教授) 文化財関係者 土木映画カメラマン 土木技術映像委員会委員 他	九州には石橋をはじめとする貴重な土木遺産が数多く存在するが、その多くは老朽化と自然災害の脅威にさらされている。『平成28年熊本地震』でも熊本城の石垣や通潤橋など多くの土木遺産が被災した。一方、必要な修復、保存のための移設・復元に欠かせない、石工などの伝統技術の継承者は高齢化しており、若手への技術の伝承が急がれる。 討論会では、現存構造物の映像による記録の必要性、技術伝承への映像技術活用の可能性について、九州の土木遺産保存の現状と課題を共有するとともに議論する。 技術映像としての情報の視覚的な保存により、データベースとしての機能だけでなく、技術の共有、土木遺産の認知度の向上、将来的にはバーチャルリアリティ技術との融合による次世代への効果的な技術伝承などの効果が期待できる。	
【研28】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2305	継続教育におけるe-ラーニングの展開 継続教育実施委員会 http://committees.jsce.or.jp/opct/01_committee	座長 竹村 次朗 話題提供者 福原 美三 岸田 徹 石川 孝重 大和 則夫 鷺見 浩一	継続教育実施委員会委員長:東京工業大学 (一社)日本オープンオンライン教育推進協議会事務局長:明治大学特任教授) ①社会人の学びのトレンド/国の政策動向 (株)ネットラーニング 代表取締役 ②技術シーズ:e-ラーニングの技術的動向 (一社)日本建築学会:日本女子大学 教授 ③先行学協会 建設コンサルタント協会九州支部理事:(株)東京建設コンサルタント 専務執行役員九州社長 ④外部のe-ラーニングに期待すること 継続教育実施委員会e-ラーニング運営小委員会委員長:日本大学 教授 ⑤継続教育実施委員会	継続教育実施委員会・技術推進機構では、土木技術者のためのe-ラーニングの本格導入に向け、今年度にe-ラーニングの試行を行う。大学でのe-ラーニングの普及や民間による各種e-ラーニングが提供される中、土木学会において今後本格展開を進めるにあたり、e-ラーニングによる学びの現状や先行する学協会の取り組み、土木技術者の学びの現状を踏まえ、土木学会のe-ラーニングは、何を目標として、どのような方向性を目指すべきかについて、討議を行うものである。	
【研29】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2202	「若手技術者の失敗に学ぶ～Innovation 若手技術者による土木“革新”2017」 若手会員パワーアップ小委員会 http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/	座長(予定) 「若手技術者の失敗に学ぶ～Innovation 若手技術者による土木“革新”2017」 話題提供者 企画委員会若手パワーアップ小委員会の委員 企画委員会若手パワーアップ小委員会の委員 他	企画委員会若手パワーアップ小委員会の委員 企画委員会若手パワーアップ小委員会の委員 他	若手パワーアップ小委員会では、昨年度研究討論会「若手が集まる講習会を考える」で活発に討論された結果(http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/node/19)を「若手パワーアップ塾」「プラタシ」など当小委員会主催の企画や、各支部活動に展開してきた。今年度研究討論会ではこのような企画の1つとして、「若手技術者の失敗に学ぶ」討論会を開催する。当小委員会から話題提供(失敗事例と分析結果の紹介)をおこない、調査・計画・設計・施工の各段階の失敗事例を学んで技術力やモチベーションの向上を目指すとともに、グループワークを行うことで参加者の交流を深める。	
【研30】 9月13日(水) 13:00-15:00 センター2号館2306	「自動走行×道路インフラ×流通事業がリンクする未来」 土木情報学委員会 http://committees.jsce.or.jp/cceips/	座長 河村 圭 話題提供者 天野 肇 近藤 康弘 西村 出 平井 秀明 山根 裕之	山口大学 特定非営利活動法人 I T S J a p a n AZAPA(株) (株)セブン&アイHLDGS. (株)リコー 伊藤忠テクノソリューションズ(株)	平成26年6月に国土交通省の定期点検要領が策定され、道路インフラについて原則として5年に1度の定期点検が義務づけられた。また、ICT技術の発展に伴い、新しい点検技術が開発されている。一方で、道路インフラ自体は、従前どおり新設あるいは補修・補強がなされている。この道路インフラを情報インフラとして利用することで、計測精度や測位精度が向上する可能性が高い。近年開発が進む自動走行についても、道路インフラが発信する情報を利用した走行システムの活用が期待できる。また、災害時における動線の情報を発信することで、いち早い物流の復旧が可能となる。道路インフラが発信する情報によって変わる未来について幅広く議論を行う。	